

名古屋市観光客・宿泊客動向調査

(平成20年度)

平成21年 10月

名古屋市市民経済局

目 次

1. 観光統計について.....	1
(1) 全国観光統計基準の採用.....	1
(2) 入込客数.....	1
(3) 観光消費額.....	4
2. 調査の集計結果.....	6
2-1 観光客の現状.....	6
(1) 調査の概要.....	6
(2) 調査結果.....	8
2-2 宿泊客の現状.....	26
(1) 調査の概要.....	26
(2) 調査結果.....	27
2-3 宿泊施設調査.....	42
(1) 調査の概要.....	42
(2) 宿泊施設の現状.....	43
(3) 宿泊客数.....	45
3. 資料編.....	55
(1) 主要観光施設への入込動向.....	55
(2) 名古屋のまちの印象.....	59

巻末 調査票

注1：本文中で用いたテレビ塔、パノラマハウス、ブルーボネット、イタリア村、スカイプロムナードの正式名称は、それぞれ名古屋テレビ塔、JR セントラルタワーズパノラマハウス、名古屋港 ワイルドフラワーガーデンブルーボネット、名古屋港イタリア村、ミッドランドスクエア スカイプロムナードである。

注2：表、グラフに記してある居住地別のなどの数値にはその項目の「無回答」が除かれているため、その合計と全体の数値が一致しない場合がある。

1. 観光統計について

(1) 全国観光統計基準の採用

名古屋市では、交流人口の核をなす観光入込客数の把握の精度を高め、観光施策の企画立案に必要な基礎データを整備するため、愛・地球博開催を契機に平成17年度より、全国観光統計基準に準拠し、行・祭事、イベント、スポーツ、音楽・演劇等の都市観光を中心とする新たな観光地点を調査に加えた。

平成20年度については、全国観光統計基準に適合する82地点の観光入込客数を把握した。

(2) 入込客数

①観光入込客延べ人数

観光関連施設や行・祭事、イベント実施団体からの入込客数の回答により、観光入込客延べ人数を算出した。平成20年度の名古屋市内の観光入込客延べ人数は約5,248万人であり、平成19年度と比較して369万人減少（対前年度比率93.4%）した。

主な減少の理由は、平成19年度に入場者が増加した反動や、平成20年5月に「イタリア村」が閉村し、それが名古屋港近辺の観光地点にも影響を与えたことなどである。

表 1-1-1 観光地点の分類別入込客数の推移

(上段()内：調査地点数、下段：入込客延べ人数)

全国観光統計基準に基づく分類		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
大分類	中分類				
学ぶ（見る・体験する）	自然				
	文化・歴史	(26) 19,577,602	(25) 19,246,422	(25) 21,075,363	(25) 20,510,622
	産業観光	(6) 1,821,014	(7) 2,003,055	(6) 1,917,028	(5) 1,615,170
遊ぶ（楽しむ・リフレッシュする）	スポーツ・レクリエーション施設	(17) 14,834,016	(17) 12,955,647	(17) 12,300,363	(18) 11,231,946
	温泉				
	買物				
触れ合う（交流する）	行・祭事	(12) 7,477,495	(14) 7,428,814	(14) 7,880,964	(15) 7,772,812
	イベント	(24) 14,967,916	(22) 11,538,634	(22) 12,996,629	(19) 11,345,439
計		(85) 58,678,043	(85) 53,172,572	(84) 56,170,347	(82) 52,475,989

注：調査した観光地点数は、年度によって変動します。

◆調査対象観光地点の選定について

名古屋市では、平成8年3月に社団法人日本観光協会が刊行した『全国観光客数統計～観光統計の調査・集計方法の全国統一～（全国観光統計基準の提案）』の基準を参考に、調査対象観光地点を選定している。

参考：調査対象施設の基準

- ・原則として、年間入込客数が5万人以上かつ、市外の観光入込客数が2割以上見込まれる市内観光地点を対象とした。
- ・新規開業施設については、初年度から年間5万人以上の入込客が見込まれる場合には、初年度から調査対象とした。

②観光入込客実人数の推計

観光客の現状調査の回答により、平均訪問観光地点数を設定し、観光入込客実人数を推計した。平成 20 年度の観光入込客実人数は 3,200 万人であり、平成 19 年度と比較して 104 万人減少（対前年度比率 96.8%）した。

表 1-1-2 観光入込客 延べ人数と実人数の推移

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
観光入込客延べ人数（人）	58,678,043	53,172,572	56,170,347	52,475,989
平均訪問観光地点数	1.67	1.73	1.70	1.64
観光入込客実人数（万人）	3,514 万人	3,074 万人	3,304 万人	3,200 万人

③居住地別観光入込客数の推計

観光客の現状調査の回答により、観光入込客の居住地割合を設定し、名古屋市内・市外別の観光入込客実人数を推計した。

表 1-1-3 居住地別観光入込客実人数の推計

	全 体	名古屋市内客	名古屋市外客
観光入込客の居住地割合	100%	35.7%	64.3%
観光入込客実人数	3,200 万人	1,142 万人	2,058 万人

④宿泊客実人数の推計

宿泊施設の現状調査の回答により、宿泊施設の延べ宿泊客数、宿泊客実人数、宿泊客平均宿泊日数を推定した。

表 1-1-4 宿泊施設の宿泊客数 延べ人数と実人数の推移

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
延べ宿泊客数（人）	7,135,833	6,288,947	6,384,202	6,238,020
宿泊客実人数（人）	4,472,967	4,752,837	4,845,349	4,719,502
宿泊客平均宿泊日数（日泊）	1.60	1.32	1.32	1.32

⑤居住地別宿泊客実人数の推計

宿泊客の現状調査の回答により、宿泊客の居住地割合を設定し、名古屋市内・市外別の宿泊客実人数を推計した。

表 1-1-5 居住地別宿泊客実人数の推計

	全 体	名古屋市内客	名古屋市外客
宿泊客の居住地割合	100%	7.6%	92.4%
宿泊客実人数	472 万人	36 万人	436 万人

⑥居住地別宿泊客・日帰り客実人数の推移

観光入込客実人数から宿泊客実人数を差し引いて、日帰り客実人数を推定した。

観光入込客実人数を居住地別にみると、平成 20 年度の名古屋市内客は 1,142 万人であり、平成 19 年度と比較して 100 万人減少し、名古屋市外客は 2,058 万人であり、平成 19 年度と比較して 4 万人減少した。

また、平成 20 年度の宿泊客実人数は 472 万人であり、平成 19 年度と比較して 13 万人減少し、平成 20 年度の日帰り客実人数は 2,728 万人であり、平成 19 年度と比較して 91 万人減少した。

表 1-1-6 居住地別宿泊客・日帰り客実人数の推移

		平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
観光入込客実人数	計	3,074 万人	3,304 万人	3,200 万人
	名古屋市内	1,030 万人	1,242 万人	1,142 万人
	名古屋市外	2,044 万人	2,062 万人	2,058 万人
宿泊客実人数	計	475 万人	485 万人	472 万人
	名古屋市内	27 万人	38 万人	36 万人
	名古屋市外	448 万人	447 万人	436 万人
日帰り客実人数	計	2,599 万人	2,819 万人	2,728 万人
	名古屋市内	1,003 万人	1,204 万人	1,106 万人
	名古屋市外	1,596 万人	1,615 万人	1,622 万人

(3) 観光消費額

①観光総消費額の推移

観光客の現状調査の回答により、観光入込客一人あたりの名古屋市内での消費額を宿泊客と名古屋市内・市外別日帰り客に設定し、観光総消費額を推計した。平成 20 年度の名古屋市内の観光総消費額は 2,511 億円であり、平成 19 年度と比較して 105 億円減少している。

宿泊客の総消費額は 970 億円と昨年度と比較して 100 億円減少し、世界的な不況による影響が感じられる。

日帰り客の総消費額について居住地別にみると、名古屋市内、市外とも昨年度とほぼ横ばいとなっている。

表 1-2-1 観光総消費額の推移（推計値）

	居住地	平成 19 年度	平成 20 年度
宿泊客実人数		485 万人	472 万人
日帰り客実人数	名古屋市内客	1,204 万人	1,106 万人
	名古屋市外客	1,615 万人	1,622 万人
宿泊客一人あたり消費額		22,188 円	20,559 円
日帰り客一人あたり消費額	名古屋市内客	3,645 円	4,012 円
	名古屋市外客	6,854 円	6,761 円
宿泊客総消費額		1,070 億円	970 億円
日帰り客総消費額	名古屋市内客	439 億円	444 億円
	名古屋市外客	1,107 億円	1,097 億円
名古屋市内観光総消費額		2,616 億円	2,511 億円

②観光消費額の内訳の推計

観光客の現状調査の回答により、観光入込客一人あたりの名古屋市内での各項目別の平均消費額を宿泊客と名古屋市内・市外別日帰り客に設定し、名古屋市内での旅行費用項目別の消費額を推計した。

その他消費額は、総消費額から各項目別の消費額を差し引いた金額である。

食事費、交通費、土産費、宿泊費は昨年度に比べ、それぞれ数十億円減少している。

表 1-2-2 観光消費額の内訳の推移

	平成 19 年度	平成 20 年度
食事費消費額	854 億円	791 億円
交通費消費額	374 億円	332 億円
土産費消費額	531 億円	486 億円
宿泊費消費額	550 億円	487 億円
その他消費額	307 億円	415 億円
総消費額	2,616 億円	2,511 億円

表 1-2-3 観光客一人あたりの平均消費額

	宿泊客	日帰り客	
		名古屋市内客	名古屋市外客
食事費	7,287 円	1,306 円	1,867 円
交通費	2,070 円	439 円	1,139 円
土産費	4,632 円	440 円	1,343 円
宿泊費	10,316 円		

表 1-2-4 旅行費用項目別総消費額の推計

	宿泊客	日帰り客		観光客計
		名古屋市内客	名古屋市外客	
食事費総消費額	344 億円	144 億円	303 億円	791 億円
交通費総消費額	98 億円	49 億円	185 億円	332 億円
土産費総消費額	219 億円	49 億円	218 億円	486 億円
宿泊費総消費額	487 億円			487 億円